

めあてを高く  
できるまで やれ

岡崎市立梅園小学校  
校長室だより 15

令和 2年11月16日  
こん どう ふみ ひこ  
近 藤 文 彦



## 自分で考えて 行動する

### ○ 5年避難所体験学習 11/1(日)・2(月)

今年度5年生は山の学習を取りやめ、避難所体験学習を本校で行いました。「災害24(トゥエンティフォー)キャンプ」と名付け、「心1つに レベルアップ挑戦 5-to the top(ゴートゥーザトップ)」を合言葉に実施しました。避難所指定の本校体育館や校舎を活用し、新型コロナウイルス感染予防対策下での避難所生活を体験しました。5年3組の子供たちが市役所防災課職員から学んだことを共有しながら活動を行いました。

最初に、避難所生活用品製作を体育館で行いました。段ボールで「パーテーション」「枕」「スリッパ」「敷布団」を作りました。その後、体育館から就寝する各教室(24教室)へ移動して製作したパーテーション等を設置しました。飛沫感染対策のため、足と頭が交互になる(顔の横は他の人の足)ように枕を置き、寝袋等を敷きました。



【パーテーション作り】



【完成した用品】



【寝る場所の設営】

その後、アルミ缶を使った炊飯活動を運動場で行いました。新型コロナウイルス感染予防対策として、子供一人一人がアルミ缶を使って炉と釜を作り、自分の御飯の炊飯を行いました。着火は、防災用品でもある「マグネシウムを削って火を起こす火打石」を使い、燃料は、牛乳パックや子供が新聞紙で作った固形燃料を使用しました。このように書くと簡単ですが、アルミ缶の上部を缶切りで切るところから悪戦苦闘が始まりました。缶切りを使ったことのない子供がほとんどでした。途中から教師がどんどん開けていくことになりました。火打石での着火にも時間がかかりました。着火できない場合は、途中からマッチで行いました。オール電化の生活で、火を身近に見ることのない子供もかなりいるようでした。火の怖さを知らない感じもしました。

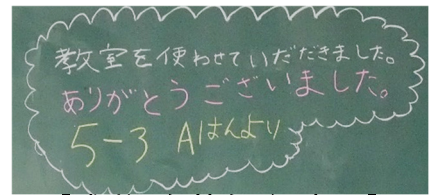
さらに、着火してからもアルミ缶の炉での火の管理ができず、すぐに火が消えてしまう子が続出しました。火がきちんと着いていれば、あっという間に炉の上のアルミ缶が沸騰して御飯が炊けるはずですが、火がすぐに消えてしまうため、なかなか沸騰する温度まで上がりません。時間がかかりすぎて、炉のアルミ缶が柔らかくなってしまいました。14時50分頃から始まり17時50分頃には、時間切れとなり、炊いた御飯とレトルトカレー、ソーセージ等で暗い中で夕食を食べました。おいしく炊けた子供もいれば、半分から下の部分だけ食べられたという子供もいました。3時間かけても御

【暗い外での食事】





飯が炊けないことは、とても貴重な経験でしょう。ガスや電気の炊飯器のありがたさも感じたと思います。また、各教室の床の上で眠るという経験もなかなかできないと考えます。今回の経験を生かして、災害が発生した時には、被災者として支援されるだけでなく、何をすればよいのかを自分で考えて動いてほしいです。発災直後は、地域には高齢者と小中学生以下の子供がいるだけです。大人は仕事、高校生以上は学校です。頼りになるのは、小学校高学年と中学生です。地域で頼りされる存在となるように子供たちを指導・支援し、育てていきたいと考えています。



【感謝の気持ちが黑板に】

## ○ 6年修学旅行 11/9(月)・10(火) 奈良県・三重県(伊勢)

例年とは目的地が変更になりましたが、「一生に一度の修学旅行 最高の仲間と最上のマナーで最高の思い出を作ろう」をテーマに修学旅行を実施しました。修学旅行は、愛知県では見られない日本の伝統文化に触れたり、体験したりする機会です。これからの国際社会に



【実物大の大仏顔】



【人が少ない法隆寺】

生きる子供たちが、海外の方とコミュニケーションをとる上で、日本のいろいろな伝統文化を実際に知ることはとても重要です。6年の廊下には「実物大の大仏の顔」が貼ってありましたが、社会科などでの学びを、本物で確かめる機会でもあります。

10時30分頃に法隆寺に到着しました。予想はしていましたが、とても人が少なかったです。右上写真のように人が少なく、法隆寺の七不思議の1つである鯛石も踏みたい放題でした。例年だと海外からの観光客が多く、子供たちが英語で声を掛けることもあるのですが、ほとんど見当たりませんでした。人混みに苦労しながらガイドさんの説明を聞いてメモをとる様子はなく、余裕をもって話を聞いたり、実物を見たりすることができました。食事の場所では、対面になるところは前にビニールシートなどがありました。普段の給食と同じように、食べる時だけマスクを外していました。



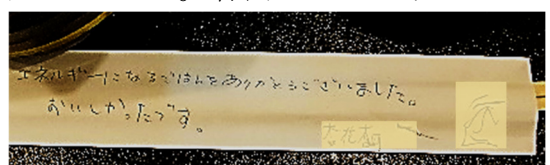
【対面での食事会場】

奈良公園では、活動班ごとに地元のボランティアガイドさんについてもらいました。私も初めての経験でした。大変丁寧に説明してくださいました。私は、混雑している大仏殿の中でガイドさんの説明がよく聞こえないという経験ばかりでした。子供たちが熱心に質問している姿もたくさん見ました。二月堂でボランティアガイドさんに声を掛けられました。「修学旅行は単なる観光ではないですね。私も学びながら、登るのを助けられてここまで来ました。一人では登れません。この班の子供たちは仏様のような子たちです」と話された78歳のガイドさんの手は、その班の子供が支えていました。きっと自分で考えて行動してくれたのだと思います。



【大仏殿の前で】

奈良で宿泊した旅館から出るときに、女将さんから「朝食の箸袋にメッセージが残されていました。ありがとうございました」と言われました。箸袋には「エネルギーになるごはんをありがとうございました。おいしかったです」などと8膳ほどに書いてありました。とても温かい気持ちになりました。



【感謝の気持ちが箸袋に】